

可視化することで分かった自分の役割。



社会福祉法人ユーアイ村（茨城県水戸市）
就労継続支援B型事業所・就労移行支援
ユーアイキッチン

法人事務局長
藤澤利枝
Rie Fujisawa

知的に障害のある方が多く通い、1日約250食のお弁当を作っている。茨城県庁や近隣企業などへの宅配や、イトインコーナーも設けている。

働く喜びを感じる為に作ったツール。

厨房で作るお弁当は毎日が日替わりです。旬の野菜をたっぷり使い、おかずの種類やメニューのバリエーションも豊富。そのため、作業工程はもちろんのこと、材料や容器の種類も全てにおいて複雑で、覚えなくてはならないことが非常に多いです。しかも、企業の方がお昼休憩に食べるお弁当ですから、時間にも追われています。それらを職員が利用者さんと一緒にこなしていくとなると、どうしても上手くいかない利用者さんに対して職員の間で口調がきつくなってしまうたり、余裕のない支援をすることが多くなりました。その様子を見て、働く喜びを感じられているのかと不安に感じました。ここで働く利用者さんは、出来れば誉められて、働く楽しさを知り、そして出来ることが増えていくことが望ましいと思ったのです。そこで、指導の方法を工夫するのではなく、何かツールを取り入れてはどうかと考え、その思い

が明確に見える。それを自ら達成することが出来る。と職員から誉められる。誉められるようになると仕事が楽しくなり、もっとがんばろうと思える。また逆に、達成できなかった業務や理由も見えやすくなる為、改善方法も分かりやすい。その場合は職員からのフィードバックも的確に行うことができ、次に繋げることが出来るのです。また、カードの使い方としてその日の業務が分かりやすいだけではなく、月間・年間目標へと通じる仕組みになっています。自分の目標を意識し、将来に向けて前向きに取り組めるようになります。言葉で説明しても伝わらないことが、目で見えるようにすることによってここまで変化するものか、と想像以上の驚きがありました。

また、プロのデザイナーさんに制作していただいたことにも大きな意味があると思っています。見た目のイメージも大切に、綺麗で可愛いものを使うことでこれまでの障害福祉のイメージを変え、プロ意識を持って働ける環境を作っていきたいのです。やはり障害福祉の世界に対

をデザイナーさんに相談しました。利用者さんが、自分の役割をこの場所に感じられるようなツールはないかと、試行錯誤した結果完成したのが『タスカルカード』です。

日々のタスクから年間目標へ。未来の自分に繋がるもの。

利用者さん全員の業務を可視化し、全員で全体が見えるようにすることが一番の目的となるツールです。自分が今取り組んでいる目の前の業務だけではなく、全員がどのように動いているのか俯瞰で見理解できることができ、多くのタスクの中で自分が必要とされている場所がいかに大切に分かるようになっていきます。一つ一つの業務は単純なことですが、時間の使い方や責任の持ち方、達成感など、様々な要素が加味されることによって、やりがいを感じる業務に変化していききました。それによって目まぐるしく業務効率が上がリ、一人ひとりのスキルアップに繋がったのです。

仕事が細分化され、今何をやるべきか

してあまり良いイメージを持たない方もおられます。しかし、誰もが自分の役割を認識し、やりがいや生きがいを持って生きていく。そんな当たり前のことが出来るような意識付けはこれからも取り組んでいきたいと思っています。

有限会社 平井情報デザイン室

代表取締役 **平井夏樹**

この仕事をするまでは、障害のある方と接したことはほとんどありませんでした。福祉業界の知識もありません。しかし、仕事をする上で業務の整理整頓が必要となることは誰にでも共通して言える事だと思っています。そこで考えたのが『タスカルカード』でした。目の前にあるコンテンツを少し違う角度から見てみることで思わぬ効果があることは、デザイナーの仕事を通じて常に感じていることです。福祉施設だから、ではなく、チームで働く上で大切となる「可視化」を形にしたツールとなりました。



やりがいがあった。